

ダルス養殖の拡大に向けて（令和6年10月9日）

女川水産加工研究会では、水温上昇など海洋環境の変化への対応として新たな養殖種の活用に関心があり、その一環としてダルス養殖試験に取り組むことになりました。

今日は、女川町の(有)丸よ山岸水産様でダルス種苗の芽出し水槽への収容作業を行いました。

春にカキ殻へダルスの孢子（タネ）を付着させた後、水温の高い夏の間、盤状体（葉になる一歩手前の状態）として冷蔵庫の中で休眠させておいた種苗を、加工場に設置した芽出し水槽へ収容しました。地先の水温がだいぶ下がってきたとはいえ、止水で管理するので、気温が上がると水温も上がり種が弱ってしまい、死滅するおそれもあるので、あまり水温が上がらないよう管理する必要があります。芽出し水槽への収容後、水温が安定して23℃を下回ったのを確認し、投光器で照度を上げて、芽出しを開始します。

今後、ダルスの生長具合を確認しながら、陸上管理を行い、1cm前後に生長したら海面での養殖試験を実施する予定です。



顕微鏡で盤状体の状態を確認します。



カキ殻を収容していきます。



照度を確認・調整します。